リレーエッセイ

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部創立10周年に寄せて

⑭

「私の大好きな山」

一関市赤荻　小山　常光

山の魅力にとりつかれたきっかけが五葉山だった。私は教職生活の転勤族で、昭和四十三年ごろは、釜石市だった。勤務校の校章が石楠花の花をデザインしたもので、実際にその実物を見たい気がした。

その花の群生地が五葉山と知り、仲間と釜石の登山道から挑戦した。若い時分だったから無我夢中であまりわき目もふらず、あまり苦労もせず登頂した。

そして、石楠花荘（山小屋）のある広場で、豊富に流れているおいしい水を飲み、体全体で新鮮な空気を味わった。もちろん、石楠花の花も観察することができた。

大分時が過ぎた平成五年ごろ、二度目の釜石勤務時代に家内と若いころの登山の話をしているうちに、再び登ってみたい気持ちになった。

自宅がある一関に帰る途中、確か十月十日の『体育の日』の午後、簡単に登れると思い、大船渡の赤坂峠から挑戦した。登山靴もなくズックで、軽い気持ちでスタートしたが、昔のような体力もなく、ようやく登頂した。

日没も早くやっとの思いで下山すると、赤坂峠の駐車場には自分の車だけが残っていた。周りを眺める余裕さえなかった。

しかし山頂で少し時間をとり、見晴らしのよい所でボーッとしていた時、遠くの方から口笛でも吹いているような音がし、注視すると眼下に広がる草原を二頭の鹿が追いかけっこをしながら木立の中へ消えていった。

雄鹿が雌鹿を誘っているのだろうと思った。はじめて鳴き声を聞き、あの広々とした草原に響き渡るその情景はとても感動的だった。これが山登りの始まりとなった。

さて、不思議にも教職生活最後の年、平成十一年が五葉山の麓（ふもと）の住田の地だった。赴任して、玄関を入るとはいない。頂上近くには豊富な水があり、山小屋も整備され、まわりには広場がある。山頂からは四方八方眺めがよく、そして麓には登山の疲れを癒してくれる温泉がある。

なかでも、「花の百名山」として全国的に有名になった石楠花の群落が素晴らしい。毎年七月中旬になれば観賞に出かけたくなる。

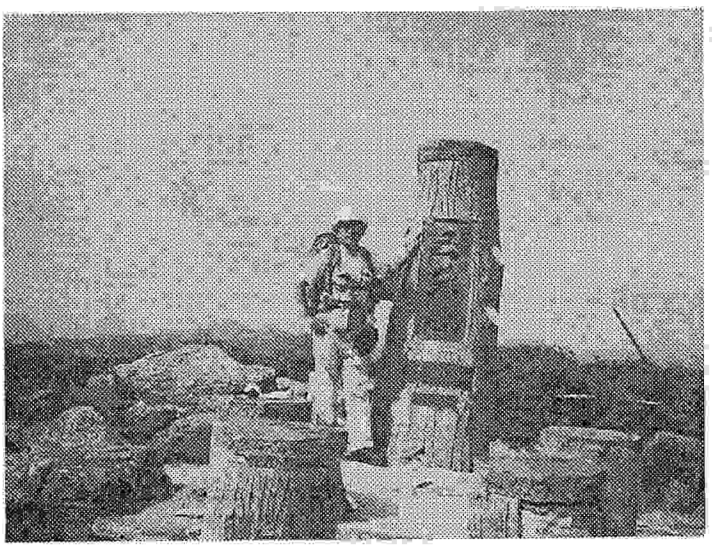
あまり大きくない木々と一面の笹との間の空間に、奥行き深く一面に咲き誇る情景は、まさに自然でなければできない雄大な庭園だといつも思う。

その他にも沢山の高山植物に出合える。コメツガやヒノキアスナロの原生林や、高く聳え立つ日の出岩も深い感動を与えてくれる。今後は、まだ歩いたことのないコース、住田町からの登頂を目指し稜線を歩きたいものだと思う。

登山歴十五年。二人三脚で富士山をはじめ東北の多くの山を体験させてくれた、その礎を築いた五葉山に感謝している。

これからも仲間との和を広げ、多くの登山愛好者とともにできるだけ多くの山を歩きたいものだ。

【執筆者プロフィール】一関市赤荻在住、六十八歳。元高校教師。五葉山に関係の深い県立釜石南高校、釜石北高校、住田高校などに勤務。登山を通して自然の素晴らしさ、厳しさ、有難さを体験している。



五葉山の山頂に立つ筆者